

子どもの心を育てるもの



尾花沢市 青少年育成市民会議 会長 池田 正義

市民の皆様を始め、多くの方々のご理解とご協力により、令和7年度の青少年育成市民会議の事業を計画通りに終えることができました。心より感謝申し上げます。今年度の成果と課題を評価し、より充実した令和8年度の活動に取り組んでまいります。さて、十月に行われました青少年健全育成県民大会では、子どもが幸せに育つには、学校、家庭、地域の密接な連携が必要であることが確認されました。また、第七次山形県教育振興計画には、学校、家庭、地域が一体となって展開される教育について、そして、そのために子どもたち、保護者、家庭、地域、企業・NPOが目指すべき行動や考え方が県民の皆様へ(メッセージ)として示されています。

子どもたちの幸せな育ちや教育に、より多くの連携が求められるのはなぜでしょう。遠藤利彦氏(東京大学大学院教育学研究科教授)の著書『安心感が子どもの心を育む』に、次のようにありました。家庭の内側、外側でも、子どもの近くにいる大人のアタッチメント(子どもが不安なとき、感情がくずれたとき、特定の大人にくっついて「もう大丈夫だ」という安心感に浸ること)が、子どもの心の発達を左右し、その後の子どもの幸せな生き方にも大きく影響します。このアタッチメントにより子ども

肯定感・自己理解・意欲・自己効力感・自制心・自立心、社会性「コミュニケーション力・思いやり・協調性・道徳性・規範意識」が育ちます。その非認知能力が育つことで外に出てチャレンジし、失敗したり傷ついたりしても安心感に浸ることが出来る大人のところに帰ることでエネルギーが満たされます。そして、またチャレンジすることが出来るのです。この意欲的な取組みが、子どもに与える安心感に繋がります。では、子どもにとって安心できる大人は、家族だけでよいのでしょうか。当然、家族から受ける安心感による影響は大きなものです。しかし、子どもが過ごすのは、家庭内だけではありません。家庭の外側にも子どもが安心できる大人がいれば、子どもは多くの場面で思う存分チャレンジすることが出来ます。つまり、子どもが安心感に浸れるように家庭、学校、地域等が連携して取り組むことが、子どもの心を育むことにつながるのではないのでしょうか。この著書の最後に、子どもの心を育むための大人の具体的な役割がありましたので紹介します。

- ①アタッチメントの対象として、安全な避難場所と安心な基地の役割を果たすこと
 - ②集団の中に温かい感情的な雰囲気をつくりあげる
 - ③子どもたちの感情の聞き役、語り部、指南役となること
 - ④子どものモデルとなること
 - ⑤子ども同士の遊び・学びの見守り役としての役割を果たすこと
- この五つは、私たちの心に刻んでおきたいものです。

青少年おばなごわ

第42号 編集発行 令和8年3月1日

市成議 市育会 尾花沢市 青少年市民



令和7年度 尾花沢市青少年健全育成市民集會 夢の実現へ、夢を持ち続けることの大切さ



令和7年11月9日(日) 文化体育施設サルナート・コンベンションホールにおいて、青少年健全育成市民集會が開催されました。当日は約450名の皆さまに参加をいただき、大変有意義な集會となりました。

集會では、青少年健全育成に顕著な功績のあった優良団体・功労者への表彰を行い、地域全体で子どもたちを支えてきた歩みがあったため共有されました。その後、青少年を取り巻く厳しい社会状況を踏まえ、「大人が変われば子どもも変わる」というスローガンのもと、家庭・学校・地域が連携し、地域の子どもの地域で守り育てるという意識を一層強めて行くことが確認されました。

続くトークショーでは、レスリング女子元日本代表 吉田沙保里氏を講師に迎え、「夢の実現へ、夢を持ち続けることの大切さ」をテーマに講演が行われました。吉田氏は、自身の競技生活を振り返りながら、「夢や目標は、すぐに結果が出な

くても持ち続けることが大切。あきらめずに努力を重ねることで、道は必ず開ける」と語りました。また世界の舞台で挑戦を続ける中で、家族や指導者、地域の大人たちの支えが大きな力になってきたことに触れ、「自分一人ではここまで来られなかった。そばで支えてくれる大人の存在が、子どもたちにとって何より励みになる」と述べました。さらに、失敗や挫折を経験した際にも、「負けた経験があったからこそ、次にどうすべきかを考え、成長することができた」と語り、会場の参加者に強いメッセージを届けました。本集會を通して、青少年の健全育成は地域に暮らす一人ひとりの関わりによって支えられていることを再認識する機会となりました。今後も地域ぐるみで子どもたちの成長を見守り、支える取り組みが広がるよう、市民の皆さまのご理解とご協力を得ながら、活動に取り組んでまいります。



令和7年度のいじめ・非行をなくそう、やまがた県民運動に係る「いじめ防止」標語の募集で村山管内の小中及び特別支援学校144校より21,264点もの応募がありました。そのうち、尾花沢市では755点の応募があり、15点の作品を推薦しました。

小学生の部

- ◎変わらうよ 見ているだけの自分から
- ◎その言葉 口にする前ひと呼吸
- ◎やさしさは 小さな勇気 大きな力
- ◎いやなおもい しないさせない あかるいえがお
- ◎なにげなく はなった言葉の 矢はぬけぬ
- ◎かけてみよう やさしい心の プランケット
- ◎やらないで 自分がされて いやなこと
- ◎ともだちと やさしいきもちで なかよくね
- ◎がまんダメ 何でも言える 環境に
- ◎チクチク言葉にかぎかけて ふわふわ言葉ですごすこと

中学生の部

- ◎SNS 二度と消せない その言葉
- ◎気付いてる? 見て見ぬふりも 傷つける
- ◎その一歩 小さな勇気 救いの手
- ◎その言葉 消えるの瞬間 傷一生
- ◎「してないよ」された人しか 分からない

※掲載は、学校、学年順

青少年健全育成 優良団体

板橋桜川地区・常盤地区 交流事業実行委員会 (常盤地区)

尾花沢林間学校は、令和7年で50年という大きな節目を迎え、これまで桜川地区のたくさんの子どものために、尾花沢の自然に触れる体験や、忘れられない時間の提供をしてきた。子どもたちの心と身体を育むだけでなく、板橋区と尾花沢市の間に温かい絆を築いており、青少年の育成と地域の活性化に大きく貢献している。

城山ロードレース大会 実行委員会 (常盤地区)

「延沢城跡」の国史跡指定を記念し、毎年11月3日(文化の日)に子どもたちの体力向上を目的に、ロードレース大会を開催している。令和7年度で40回の開催となり、これまで児童生徒をはじめ一般の方も多数参加しており、常盤地区をはじめ尾花沢市内外のスポーツ少年団の活動の場となるなど、青少年の育成と、地域の活性化に大きく貢献している。

青少年健全育成 功労者

稲葉美季子 (尾花沢地区) 平成8年より29年間、尾花沢市青少年育成推進員として地域



福原 ふくはら GAKUTO 活動報告 プラネタリウム見学とスノードーム作り



12月25日、13名が参加しました。午前中北村山視聴覚センターでプラネタリウムを見学し、冬の星座について勉強しました。公民館に戻り、消費生活カルタで楽しくかるた取りをし、昼食はみんなでホットドッグとフルーツサンドを作り美味しく食べました。午後は、竹恵恵美さんを講師に冬にピッタリのスノードーム作りに挑戦。キラキラと舞う自分だけのスノードームにみんな満足していました。

12月25日、13名が参加しました。午前中北村山視聴覚センターでプラネタリウムを見学し、冬の星座について勉強しました。公民館に戻り、消費生活カルタで楽しくかるた取りをし、昼食はみんなでホットドッグとフルーツサンドを作り美味しく食べました。午後は、竹恵恵美さんを講師に冬にピッタリのスノードーム作りに挑戦。キラキラと舞う自分だけのスノードームにみんな満足していました。



福原 福中最後の 中学校 小中クリーン作戦 活動報告

閉校を迎える今年度。小中連携事業として、そしてボランティア活動の一環として最後の「福原地区 小中クリーン作戦」を実施しました。全校生が自分の住んでいる地区の公民館をスタートとゴールとし、各公民館長さまの協力を得て、ゴミ拾いをしました。地域を綺麗にする活動を通して、地域への感謝を再確認するとともに、地域の環境美化に貢献しました。尾花沢中と統合しても地域とのつながりを大切に、自分たちにできることに「気づき」、「考え」そして「実行」できる人になれるよう努めていきます。



尾花沢 ほたるの里郷土資料館見学&銀山散策 活動報告 青少年育成尾花沢地区市民会議

9月23日(火) 尾花沢小学校の児童5名の参加で「ほたるの里郷土資料館見学&銀山散策」を行いました。

ほたるの里郷土資料館では、大類誠文化財専門員よりホタルや民具、市内の遺跡から出土した土偶や石器について説明いただき、銀山では銀鉱洞の中に入り「焼き堀り」という方法で銀を採掘していたことを教えていただきました。

実際に笠や蓑(みの)を身に着けてみたり、本物の土偶を手で触れてみたりと普段できない体験に加え、各ポイントでは手作りのクイズ出題があり、児童の皆さんは楽しい一日を過ごしました。



尾花沢 生徒発案の 中学校 ボランティア活動 活動報告

令和7年度の尾花沢中学校では、「ボランティアの意識の高まりを形にする」をテーマに生徒会 JRC 委員会を中心に活動してきました。大きな取り組みとしては、保育園でのボランティア・特別養護老人ホームでのボランティアです。

「保育園でのボランティア」は、「保育園で貢献できることをやってみよう」という生徒の声によって実施が決定しました。自分たちで参加者を募り実施しました。その活動の様子が地域に広がり、保育園から「お願いしたい」と要望をいただきました。学校と地域の双方向の関係ができています。

尾花沢中のボランティア意識の高まりは、地域に広がり、地域と共にある活動へと進化しています。



常盤 第50回 尾花沢林間学校 活動報告

今年度の林間学校は天候にも恵まれ、熱中症対策を万全に7月25日(金)から27日(日)までの3日間、無事に行うことが出来ました。

昨年は残念ながら「沢歩き」や「キャンプファイヤー」が中止となりましたので、それを目当てに再度参加した子供たちの期待に応えられ、ホッとしております。

そしてこの活動も50回の節目を迎えることが出来ました。これからもこの先の50年を見据えた活動を、板橋区桜川地区の皆さんと共に行っていきたいと思っております。



北村山 北村山高校の地域連携活動 活動報告

本校はスクール・ミッションの一つとして「地域の未来を担う人材の育成」を掲げています。尾花沢市と連携した取り組みとして、全校での「花笠まつりパレード」参加や「花のかけはし」植栽への参加などを積極的に行っています。また、地域の小中学生を対象として、本校の選択科目である「ハンゲル入門」を活かし、「K-POPダンス体験会」や「はじめての韓国語体験講座」を行いました。地元企業と連携し、本校を会場に「尾花沢大石田少年少女発明クラブ」の体験活動も昨年に引き続き実施しました。

今後とも、地元とのつながりを大切にして、様々な世代の方とふれあい、成長していきたいと思っております。



玉野 美しい文字で集中力を養おう 活動報告 青少年健全育成玉野地区市民会議 会長 折原祐次郎

12月25日、地区の児童を対象とした文字の書き方教室が開催されました。昨年に引き続き2年目の実施で、講師は地域で指導を行っている尾崎芳桜先生と先生の門下生となる中学生の皆さんです。参加した児童たちは丁寧に指導を受け、硬筆や毛筆の課題に挑戦したほか、色紙に好きな文字をしたためたりしました。その後は手品のショーやビンゴゲーム大会が行われ、大いに盛り上がりました。

美しい文字を書くことには、集中力を高めたり心を穏やかにする効果があり、大変有意義な催しでした。



宮沢 ケーキ作りに挑戦 活動報告 宮沢地区子供会育成連絡協議会

12月6日(土)、親子ケーキ作り教室を開催しました。講師は地区内にある大崎菓子店の大崎俊一さんです。子どもたちは、用意されたケーキのスポンジに白桃や黄桃、パイナップルを挟み、数種類の絞り口を使い分けながら生クリームを絞り出してデコレーションをしました。仕上げにイチゴや砂糖菓子のサンタクロース、チョコのプレートなどを飾りました。

出来上がった世界に一つだけの手作りのケーキに、子どもたちはにっこり笑顔になりました。

